

アート・クラフト学科・授業概要一覧

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
学科入門セミナー	選択	演習	1年次	1単位
[授業の目的] 学外見学、フィールドサーベイ、グループワーク等を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につける。 [到達目標] 学内外において、入学した学科毎に、学外見学、フィールドサーベイ、グループによる活動等を通じてその専門分野について考え、関心を深めるとともに、教員および学生同士の相互交流をはかる。				
アート・クラフト概論	必修	講義	1年次	2単位
ヒトはなぜ絵を描き、モノを創るのか？ 歴史を検証し、技術と表現、社会と人間との関わりから、アートとクラフトによる今日的役割を学び、アートとクラフトに欠かせない材料と加工について工学的に理解し、実践するための知識を説明できる。				
「アート・クラフト概論」では、アートとはなにか？ クラフトとは何か？ という問いかけに対し、各領域の歴史や理論を背景に造形表現、伝統、地域、交流などの基本的な要素について論じる。また、各教員の研究分野について解説する。				
美術基礎実習	必修	実習	1年次	2単位
絵画（平面）や彫刻（立体）について、材料や技術の基礎的な知識を学び、制作において表現のアプローチの手法を理解できるようになる。				
美術の基礎として、デッサンや色彩、および素材と表現技術を学ぶために、2つの課題に取り組み、それぞれ平面と立体の作品を制作する。				
クラフト基礎実習	必修	実習	1年次	2単位
クラフト作品制作に関する初歩的な知識と技術を身につけることにより、素材の特徴を理解する。加工機器、道具類の基本的な使用方法を学び、作品制作にいかすことが可能になる。				
道具や機械の使い方の実践的作業を学び、作品制作への導入的実習を少人数のグループに分かれて行う事で、制作体験をもとに興味の範囲を広げ、基礎技術を作品に表現できる能力を身につける。				
スケッチ・素描・イメージ	必修	実習	1年次	2単位
多様な主題のスケッチ・素描を実践し、作品制作の基礎となる観察力と描写力と同時に、個々の表現を模索しながらイメージを的確に伝える技術が身につく。				
美術とクラフトにおける表現の基礎トレーニングとして、スケッチ、デッサン、クロッキー、着色でモノを見る目を養い、イメージでは個々の感性を引き出し、数多くを制作することで、手と心を自然に動かせるようにする。				
美術実習A	選択必修	実習	1年次	2単位
美術の基礎的な技法を習得するために、実技課題に取り組み、色彩構成や絵画表現の基礎的な技法を身につけ、色彩を活かした絵画や造形作品を制作できるようになる。色彩構成の用語や基礎的な理論について説明できる。色彩構成の基礎的な技法を応用して、絵画や造形作品を制作できる。				
前半は、水彩絵具やアクリル絵具、ケント紙や画用紙を用いて色彩構成の作品制作に取り組む。後半は、平面的な色彩表現から立体的な絵画表現へと展開していく。課題ごとに講評会を行う。15回目の授業では、制作した全ての作品を並べて、学習成果や今後の課題を確認する講評会を行う。				
クラフト実習A	選択必修	実習	1年次	2単位
クラフト基礎実習からレベルアップした技法と知識を習得し、素材に関して各コースの素材の特徴の理解を深め、さらに、技術的な知識から表現の可能性を研究する事が可能となる。				
ガラス・陶磁器コースとジュエリー・メタルワークコースで扱う素材や材料に関しての科学的な知識と基礎的な技法をひと通り身につけ、与えられた課題の実習を積み重ね、クラフト作品として完成させる。				
美術実習B	選択必修	実習	2年次	2単位
作品のリサーチとユニークな発想や個性的なイメージにふさわしい画材を選択して、形や色を与えて的確に表現する力をつけることができる。				
画材として水彩絵の具とアクリル系絵の具を使用する。画材を生かして、対象を鋭く観察してユニークな発想を導き出す力、想像を膨らませて個性的なイメージを展開する方法を学ぶ。				
クラフト実習B	選択必修	実習	2年次	2単位
クラフトの基礎を繰り返し行うことで技術の習得と技法の応用を学び、新たな表現を作品に試行できる能力を身につける。得意とする技法、素材を見極め、今後の研究課題を、自ら発見する能力を身につける。				
1年で習ったクラフトの基礎を繰り返し行うことで技術の習得と技法の応用を試行し、新たな表現を模索することを目標とする。複合素材を併用した作品を制作する事も可。各コースの実践的な応用の中で自分に合った技法を見出し、専門コースの選定をする。				
絵画演習A	選択必修	演習	2年次	4単位
対象を観察し描写することを中心に油絵具という画材が持つ特性やそれを扱う技術の基礎的な知識を習得する。さらに各々の独自性に着眼しながら作品を次段階に発展させる表現能力を身につける。				
絵画を専門とするための基礎となる授業である。3課題を通して油絵画の基礎的な技法を習得し、その表現方法の多様性に気づくとともに理解を深め、独自の表現を目指し作品制作を行う。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
フィギュア・彫刻演習A	選択必修	演習	2年次	4単位
モチーフに植物や動物を取り上げ、それらの持つ魅力的な形態や量感の表現を過去の優れた作品で知り、実際の制作をとおして理解する。植物や動物をモチーフにして独自の作品イメージを構想し、これまでの材料体験と習得した技法を活かした造形表現が期待できる。				
この授業では動物や植物をモチーフとして取り上げる。私たちの生活に動物や植物は欠かすことのできない存在である。それらが持つ不思議で多様な姿や形、また魅力的な量感はいままで多くの造形作品として表現されてきた。先人の優れた作品を参考にしながら独自の作品イメージを構想し、これまでの材料体験と習得した技法を活かして作品を制作する。				
美術教育演習A	選択必修	演習	2年次	4単位
共同制作を含む多様な素材、テーマの課題を体験し、それぞれの特徴や教育効果について理解し、多様な素材やテーマの作品制作に取り組むことができるようになる。多様な素材やテーマの作品制作に取り組むことができる。他者と協力して共同制作に取り組むことができる。多様な素材やテーマの課題について、その特徴や教育効果について説明することができる。				
前半は、共同制作を含む多様な素材、テーマの課題に取り組む。課題ごとに講習会を行い、作品内容の講習とともに美術教育の観点から、その課題の特徴や教育効果、評価の観点などをディスカッションする。後半は、共同制作やワークショップの企画や実践を行う。共同制作やワークショップの課題はグループワークで行う。				
ジュエリー・メタルワーク演習A	選択必修	演習	2年次	4単位
作品制作の中で基本的な伝統手法をもとに金工の技法や金属の特性などの基本知識を身に付ける。				
金属を素材とするジュエリー及び工芸表現は様々な技法をもとに制作されている。各種技法の基礎的な方法を学ぶと共に金属の特性や道具の名称、扱い方などを含めた知識を学び、社会に対応できる能力を身に付ける。				
ガラス・陶磁器演習A	選択必修	演習	2年次	4単位
泥漿鑄込み成形や、キルンキャストといった、ガラス、陶磁器に共通する石膏型成形を習得し、高度な技術を身につける。後半課題ではそれぞれの分野において、さらに技術面の習熟を高め、技術的な幅を広げる事により、作品作りの自由度を高め、オリジナリティーある作品が制作出来る。				
陶芸とガラス工芸の基本的な技法を、それぞれ実験的な課題で研究し、材料に対する知識と表現の可能性を探る。又ガラス、粘土、釉薬のテストピースを窯の温度、焼成時間などで工夫しながら実験、研究を行い、窯に対する工学的な知識も学習する。				
絵画演習B	選択必修	演習	3年次	6単位
「色彩」「フォルム」「収集・集合」をテーマにして、各自のテーマとモチーフに沿い、それぞれの画材の選択と表現技術を身につけることができる。				
個々の表現の探求のために、いくつかのトレーニングを行い、各自が目指すべきテーマや技法を3つのテーマによる制作の中から試行する。仲間の作品と比較することで自身の特徴を発見し、独自の表現を目指す。				
フィギュア・彫刻演習B	選択必修	演習	3年次	6単位
動物や人をモチーフに取り上げ、科学や文化の視点からその形態についての理解を深める。動物や人をモチーフに各自の造形作品を構想して表現できる造形力を高めることが期待できる。				
いつの時代においても私たちにあって人間や動物はとて興味深い対象であり、また芸術的にも科学的にも重要なテーマでありモチーフである。筋肉や骨格などの解剖学的な理解や、文化における様々な表現の理解を通して各自の考察を深め、それぞれの造形表現の切り口を見いだす。また完成後の展示までを考慮した、作品の構想から制作までの学習を行う。				
美術教育演習B	選択必修	演習	3年次	6単位
ワークショップの基本構造を理解し、共同制作を内包するアートワークショップを企画し、実践できるようになる。ワークショップの基本構造や社会的可能性について説明できる。小規模なアートワークショップを企画し、実践できる。				
ワークショップの概念と歴史を学び、その可能性や課題について考え、ディスカッションを行う。美術館や地域社会で展開されているアートワークショップの事例を調査し、その企画運営の方法や技術を学ぶ。さらに、学内外にフィールドを設定し、現地調査に基づいてアートワークショップを企画し、実践する。アートワークショップは、原則としてグループワークで行う。一回の授業は3コマ行い、時間をかけて、専門的知識や創造的技術の獲得を目指す。				
ジュエリー・メタルワーク演習B	選択必修	演習	3年次	6単位
金属工芸における伝統技法を身につける。				
ジュエリー、金工の表現手段は古くから伝わる様々な伝統的手法がある。その伝統的な技法を中心に技術を習得し、自己の表現手段やフィールドを研究する。また後半の研究制作ではこれまでに学んだ各種技法を元に制作することや先端的な素材、技法の研究を自主的に行う事も可能とし、今後の制作活動の展開に繋げることを目的とする。				
ガラス・陶磁器演習B	選択必修	演習	3年次	6単位
2年次までに習得したガラス、陶芸の基礎的な技術と知識を繰り返しの訓練によって身につけ、与えられたテーマに沿って複数の課題作品を制作する。その中で、各自がより専門的な技法の応用を作品に展開させるための能力を身につける。				
陶磁器の焼成やガラス加工の様々な技法の中から、自分自身に合った素材と技法を見つけ出す。また、テーマ設定を明確にし、表現と技術、両面より作品の完成度の向上を図る。ガラス、陶芸それぞれの窯に関する焼成知識をマスターし、自分で操作する事により、オリジナルの作品制作へとつなげていく。時間をかけて専門的な技法の習得と表現の幅を広げる事を目的とする。				
絵画演習C	選択必修	演習	3年次	6単位
受講者各自の作品テーマを探求しながら、独自の絵画技法を試行することで表現の方向性を見だし、自身の作品を言葉で説明し、発表・展示することができる。				
各自の作品テーマを探求するなかで絵画技法を習得する。「絵画演習Ⅱ」で実践した制作を発展させて、さらに独自の絵画表現を目指し、それぞれが目指す絵画のテーマや技法を検討し、習作の制作を経て、本制作を行う。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
フィギュア・彫刻演習C	選択必修	演習	3年次	6単位
各自のこれまでの作品を振り返ることで、そこに読み取れる世界観を探る。各自の世界観を意識した造形作品を構想し、よりふさわしい材料を選択しながら表現できる造形力を高めることが期待できる。				
各人がこれまでに制作した作品を振り返り、全体を見渡すことでどのような世界が読み取れるかを探る。また、表現を支えている材料、構造、技術、配色などについてもその適性度を検証する。作品は個々の表現だけではなく、作品どうしが互いに関係しながら作りだす世界によっても支えられている。今後の制作では背後にあって作品を支える世界観を意識し、積極的によりふさわしい材料、構造、技術、配色を選択しながら制作を進める。この授業は卒業研究へ結びつけることを前提とした学習として位置づけている。				
美術教育演習C	選択必修	演習	3年次	6単位
学校や社会において実践的なものづくりの学びの場を創出する能力を身につけるために、①現在社会で繰り返されているアートプロジェクトやアートの取り組みの事例をリサーチする力を身につける ②造形のしくみ、技法、展示のしくみなど実践的なノウハウを身につけることで、社会とアートの繋がりを意識した多角的なもの見かたと造形力を獲得する。また授業で得た知識をベースに、ワークショップ・アートプロジェクトを自ら企画できる力を養う。到達目標は、ワークショップ・アートプロジェクトなどを自分で提案できるようになる。そして、その企画内容に沿った造形物をつくることができるようになる、あるいは、それをどのようにすれば実現可能かを具体的かつ論理的に文章・口頭で説明できるようになる。自ら、テーマを探し、それに適した素材・技法・方法論を見つけ、作品としてまとめ上げる能力を身につける。				
授業の前半では、テーマに沿って平面や立体の個人制作・共同制作に取り組む。アイデアを練る段階でワークショップ、アートプロジェクトなどの社会における造形活動のあり方、技法、素材、造形について事例調査を行い、社会とアートの繋がりに関する理解を深めていく。授業を通じて、調査報告、さらにそれらの調査からみえてきたテーマやトピックについて履修者同士がディスカッションする時間を設け、互いの作品やプロジェクトについて意見交換やフィードバックを行い、相互理解を促進し、視野を広げることを推奨する。そうした取り組みから、最終的に各自がアートプロジェクト・アートワークショップあるいは作品案をまとめ、実施、展示を見据えた成果物の作成へと繋げていくこととする。				
ジュエリー・メタルワーク演習C	選択必修	演習	3年次	6単位
素材・表現方法も既成概念にとらわれず、自分なりの発想をもとに制作を行うことも可能とし、作家、デザイナーとしての表現力を身につける。				
これまで習得した工芸技法や技術を生かし、与えられたテーマもしくは自分なりの研究テーマを掲げ作品制作を行い、素材・表現方法も既成概念にとらわれず、自分なりの発想をもとに制作を行うことも可能とし、作家、デザイナーとしての表現力を身につける。				
ガラス・陶磁器演習C	選択必修	演習	3年次	6単位
各自が自分で設定したテーマに沿って、これまでに習得したガラスと陶磁器の専門的技術を展開し、独創性と完成度の高い作品を作るための深い知識を身につけ、専門的機器類の工学的理解度を深め、これから取り組みたい研究課題をより高度で洗練されたものとするための能力を身につける事が出来る。				
これまでに習得したガラス・陶磁器の技法と素材に関する知識を生かした完成度の高い作品制作を目指し、実習によって得られたデータをもとに、窯などの適切な操作を導き出す。さらに、4年次の卒業研究を見据え自身の得意とする技法、表現の発見に繋がる様に実験的試みと更なるデータ収集を行う。より高度な専門的技法と表現力を高める事を目的とする。				
美術特別演習	選択必修	演習	4年次	4単位
各自のテーマを深めるためにポートフォリオを編集し、構想を広げるためのリサーチと各自の作品展示を行い、卒業研究を側面からサポートして、美術の世界で社会と関わるために必要な知識とスキルが身につく。				
社会で認められるために、社会とつなぐこと具体的な方法として各自のポートフォリオをまとめ、卒業研究のためのリサーチも含め作品展示も行き、アートに関わる者として、社会参画とその技術について学ぶ。				
クラフト特別演習	選択必修	演習	4年次	4単位
各自の研究テーマに沿って、自由な発想で、独創的な作品を制作するための高度なクラフトの専門的な技術を身につける。また、公募展、個展、グループ展等で作品を発表し、社会に貢献できる能力を身につける。				
クラフト領域各コースのゼミ教員の指導方針に従い、作品制作または研究活動に入る。及び公募展や個展、グループ展に応募、出展し社会活動として各自の創作を発信する。				
彫刻基礎	選択	実習	1年次	2単位
彫刻の基本的な材料である粘土の特性を理解し、モデリングによる写実的な造形表現を理解する。作品制作をとおして、形、テクスチャー、色による基礎的な彫刻表現ができる。				
自然が作りだした造形ともいえる野菜や果物のなかから、凸凹した表情を持つ形と滑らかな表情を持つ形のものを取り上げて、対比的な2つの造形表現に取り組む。また、造形後には着彩を施してより写実的な表現を追求する。				
作品の見方	選択	演習	1年次	2単位
作家に必要な自己の感性についての認識を深めるために、たくさんの作品を鑑賞し、造形表現の多様性を理解し、自分にとって重要な作品や作家について論じることができるようになる。自分にとって重要な作品や作家について説明することができる。自分にとって重要な作品や作家を示しながら、自分自身の感性について論じることができる。				
毎回、図書館で図録や画集を借り、図版や写真を閲覧してその中で感動した作品をスケッチし、基本データを記録する。そのようにして収集された成果は、各自の感動の記録となる。授業の最後に、自分にとって最も重要と考える作品や作家を選定し、その作品の模写とレポートを作成する。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
ドローイング	選択	演習	1年次	4単位
各課題において、感性を刺激しイメージが膨らむ多様な素材に触れ、描画についての新たな技術を習得することにより、独自の表現を模索しながら作品を展開していく能力を身につける。				
この授業では「作品を制作する」為にはどこから始めるのか？という制作の導入部分を考えることが目的である。様々な素材に触れ実際に手を動かし作業していく中で見えてくるものを丁寧に観察し、独自の視点や新たな発見に気づき追及することで、作品として完成させる力をつける。また、自由制作（共同）ではディスカッションを通して意見することの重要性やお互いの理解を深めることを学び、協力しながら作品制作を行う。				
工芸史	選択	講義	2年次	2単位
工芸品が様々な時代にどのように変遷を遂げ現代に至ったのかを学ぶことにより、説明できる知識を身につける。それぞれの素材において技法の発展と、表現の変化を歴史的に考察する事により、今後の研究の参考にする事が出来る。				
様々な素材、高い技術によって表現される工芸は、他国から伝わったものも含め時代の変遷や文化、時代背景等の影響により独自に様々な発展や様式を生み、実用品から芸術品としても存在するものになっている。本講義は様々な時代にどのように変遷を遂げ現代に至ったのか顧みることにより、今後の制作に必要な知識を習得することを目的とする。				
日本画技法	選択	実習	2年次	2単位
日本画素材と技法の基礎知識を習得できる。日本人特有の美意識（画面構成・色彩構成）を先人達は日本画でどのように表現したかを制作しながら理解できる。制作を進める過程、アイデア<イメージ>→下図→本画へと、そのプロセスを覚える事によって他の作品制作に生かす事ができる。				
日本画の伝統的な技法と「基底物（和紙&絹）」「岩絵具」「膠」それぞれの素材の扱いを学び、日本画特有の表現（線を主体とし色面と共に型を表現する）を学ぶ。現代では様々な日本画が表現されていて、油・アクリル絵、デザイン、工芸または現代美術など多種多様な要素・表現が混入しており、ジャンルとしての線引きは難しい時代となっている。しかしながらこの授業では日本画の伝統的な「花鳥風月」をテーマとしながらも前半は伝統的な「動植物・風景・人物等、身近な物」をテーマで「和紙（麻紙）」を用い岩絵具・膠に馴れてもらい、後半は「絵絹」を用いることで、より伝統的な素材と技法を理解しながら、現代を生きる君たちのリアリティに基づく、個性的な制作を目指す。ネット等で写真素材を入手し易い環境ではあるが、スケッチを基本とし自らのフィルターを通した事象から制作を始めてほしい。「重ねて色味を出す」感覚を是非、習得してもらいたい。絵画に関わらず、その他に応用できる。				
フィギュア技法	選択	実習	2年次	2単位
フィギュアなどの造形に習熟する。				
フィギュアや人形制作の代表的な材料である石塑粘土などによる造形技法を習得する。オリジナルキャラクターのデザインから造形、彩色までのプロセスを通して、アニメフィギュアによく見られる“デフォルメされた模型的立体表現”を学習する。また観賞用固定フィギュアとしてのポーズング、人物の演技設定により、絵画的な演出とは異なる立体的な感情・状況表現の方法を身につける。				
美術工芸教育論	選択	講義	2年次	2単位
美術工芸に関する学びの場を創出する能力を身につけるために、美術・工芸の歴史を踏まえつつ学校教育や社会教育を多角的に捉える能力を身につける。到達目標は、絵画、彫刻、陶磁器、ガラス、木工など各領域の成り立ちや伝統・継承・技法など基本的な知識を身につけ、様々な事例を取り組みの考察を重ねていくことで美術・工芸と教育の関係について関連付けることができるようになる。また、その可能性と課題について理解し、説明できるようにすることである。				
美術、工芸及びデザインの理論や歴史的背景に関する知識を身につけ、国内外の事例、工芸品、美術作品を考察し、現代社会における新たな美術工芸教育のあり方を考える。 まず、工芸や美術の各領域における先駆的なアーティスト・工芸家・指導者・デザイナーの諸活動・作品を取り上げ、その歴史や理論を学ぶ。次に、幼児教育、学校教育の歴史や理念について基礎的な知識を身につけ、その後、社会教育における美術・工芸教育について、美術館における教育普及活動・アート系NPOなどによる社会的活動について、複数の事例を取り上げ考察する。最後に、国内、海外の実践的な事例を紹介し、美術・工芸と教育の可能性と課題について理解を深める。				
模型・フィギュア造形論	選択	講義	2年次	2単位
模型・フィギュアに関しての理解を深め、その造形手段を通じて独自の表現方法を養う。				
模型・フィギュアは、現代の日本文化における造形表現を考える上で重要な分野である。 それらを学ぶには、その材料や製造技術、その造形表現の変遷や玩具産業の歴史など、多角的な視点が必要となる。 この授業では、主に戦後の模型・フィギュアの変遷とその魅力について論じる。まず、プラモデルなどの玩具産業の成立と展開について振り返り、ガレージキットや食玩フィギュアの発生に至る経緯について解説。次に、現代の先端的表現について、その造形的特長や製造技術について学ぶ。				
フィギュア表現	選択	演習	2年次	4単位
人体の造形力を高める。新しい材料や造形技術を体験し知識と表現力を身につける。				
人体をモチーフとした造形表現の学習を目的とし、既存の作品を参考にしながらオリジナルの人物像を構想し制作する。また人体をモチーフにするにあたって、表情や肉感など細部のイメージまでしっかりと造形し、各部の表現によりふさわしい材料選択を積極的にすすめ、異素材を組み込むことを体験し新たな技法の習得を目指す。				
版画表現	選択	演習	2年次	4単位
版を使う歴史は古く、基本となる4つの技術がある。なかから、凸版の「木口木版」「リノカット」、凹版の「メゾチント」「ドライポイント」の技法による作品を制作する。版を使い間接的に表現することで、直接に絵筆などを使う絵画とは違う特性に気づくことが目的である。版画の基本的な技術を学び、「版」という媒体を通じての表現方法を習得する。時間をかけ専門的な知識、技術、表現力を身につける。				
授業は各課題ごとにプリントと参考作品を使って、版の特性や道具の使い方、印刷方法などを説明しながら進めていく。最終日には版画特有のサインの仕方や額装について説明し、額装した作品で学内展示を行う。				

科目名	区分	授業形態	配当年次	単位数
授業の目的と到達目標（学修成果）				
授業の概要（内容）				
宝飾表現	選択	演習	2年次	4単位
基本的な石の知識、石留め技法を学ぶ事により新しいデザイン、表現が可能となる。				
金属工芸におけるジュエリー表現の中でも宝石や貴金属を使用する表現は普遍的で主流であり、多くの手法と高度な技術や知識が必要である。宝石の種類、グレード、カット、特性や扱い方など基本的な知識から石をセッティングする技法（石留め）の種類とそれを固定する構造の理論を学び、デザイナーや職人として実践的に必要な知識と加工法を習得すると共にジュエリー作家としての造形力を身につける。				
吹きガラス表現	選択	演習	2年次	4単位
[授業の目的] ガラス素材の溶解設備を使用し、作品を通じて自己表現する。 [到達目標] 吹きガラス技法を学び、器を基本とした造形表現の基礎を習得出来る。				
テーマに沿って基礎的な器の制作からより高度な技法を学び、自由なデザイン表現が出来る様技術を習得する。又、キルンワーク、サンドブラスト加工、研磨加工など他の技法と組み合わせる事で造形的な可能性が広がる。ガラスを専攻する学生以外もサブの実習授業として選択できる。作品講評では各自が自由制作した作品をプレゼンテーションしてもらい、生徒同士質問に答えるなどのディスカッションを行う。その後生徒全員が審査員となり、投票を行う。人の作品をよく観て理解し何らかの判断を下す事を学ぶ。投票結果は参考にするが、直接成績に影響する事は無い。				
陶表現	選択	演習	2年次	4単位
手練り、鑄込み技法を習得しながら、発想力、表現力を身につけるとともに、潜在的な自分の興味や趣味趣向、能力を自ら見つけ出し、表現に結びつけることができる。				
授業1回から8回までは手びねり技法、9回から15回までは鑄込み技法を習得をする。さらに陶による自己表現の可能性を探るため、アイデアの発展を促すよう発表と意見交換を繰り返し、より良い制作の過程を見つけ、作品に結び付ける。				
ジュエリー技法	選択	演習	3年次	2単位
一般的なジュエリーにおいて身に付けるという機能は必要不可欠であり、機能を果たす為にある「金具」はジュエリーをデザインするにあたりとても重要な要素である。金属に限らずあらゆる素材を使用したものでも人とを繋ぐしつかりとした金具があることで立派なジュエリーとして成り立たせることができると言える。本授業では金具の作り方を中心に金属の特性を学びながら、身に付けるということについてより深く考察することによって表現の幅を広げ、国内外での様々な発表の場に耐え得るハイレベルな作品を制作するためのスキルを身に付けることを目標とする。				
ジュエリーの様々なアイテムに使われる既製の金具の利用・応用と共に、一から自作する金具の仕組みや制作方法を金属の特性を踏まえ習得する。				
スタンドグラス演習	選択	演習	3年次	2単位
スタンドグラスの総合的な理解と、知識を得る。また技術面では幅広く基礎的な技術の習得ができる。この授業を通し、基礎的なスタンドグラス制作が可能となる。				
スタンドグラスの歴史、材料、技法、デザインテクニック、プレゼンテーションテクニック、工房の造り方と運営などを総合的に学びます。課題で「アメリカンスタイル」、「ヨーロッパアンスタイル」の基礎的なパネル制作から、絵付け技法によるパネル作品の制作、実際の建物で想定された空間での実施調査からスタンドグラスのデザインプレゼンテーションなど、基本からより高度なものへと学ぶ。				
釉薬技法演習	選択	演習	3年次	2単位
陶芸分野での加飾技法である釉薬・下絵付け・上絵付けに関する理論と技法を学ぶ。また、様々な焼成技術により釉薬・絵具の科学的な変化を実習を通じて経験し、知識を広げることで作品に応用できる能力を身に付ける。				
先ず、テストピース制作・焼成実験を通じて釉薬の種類と科学的構造、焼成による変化を考察し、釉薬についての知識を広げる。次に、実験結果から導き出した、各自のテーマにもとづいて作品制作と独自の釉薬・絵具の研究を行う。最後に、作品制作を実践しながら、釉薬掛け・下絵付け・上絵付けの基礎技法を習得し、自己の表現方法の可能性を広げる。				
金属造形演習	選択	演習	3年次	2単位
金属を素材とするジュエリー作品制作に関しての様々な表現や工法や表面処理の方法と?葉の取り扱い、及びその効果の知識を習得する。各種七宝技法の作業工程を理解すると共に素材の可能性を探り、作品への応用、展開する造形力を身につける事を目標とする。				
ジュエリーの表現フィールドは様々な技法や表現手段を有している。中でもデザインから成形の後に作品の表情を決定づける金属の表面処理は伝統的なものから現代及び先進的なものまで様々な素材や化学的手法でも行われ、作品の表現方法として使用されている。本講義はその表面処理の様々な方法の中から七宝技法を用いてジュエリー作品として制作を行い、素材の特性を理解し、化学・工学的な視点からもアプローチすることにより自己の表現手法の可能性を見いだすことを目的とし授業を行う。				
メディア演習	選択	演習	3年次	4単位
デジタル機器の使用能力の習得と撮影技術及びプレゼンテーション能力を身につける				
各自の表現世界を社会に向けてアピールするため、デジタルカメラを用いた作品撮影、その編集によるポートフォリオの制作、コンピュータとプロジェクターによるプレゼンテーションなどについて学習する。				
卒業研究	必修	実習	4年次	10単位
学習の集大成として、それぞれの研究テーマを設定し、専門の技術で表現して展示・発表することができる。				
3年次までの学習成果を土台に、各自がテーマから高度な研究に取り組むための指導をゼミ形式で進める。ゼミ担当教員と副担当の指導を受けるが、テーマ内容によって他の教員の指導を求めることができる。最終の審査会までに、2回の中間発表で全教員が講評を行う。				